



2024
MARCH
Vol. 9

Tama Blue & Green Club Magazine

たまの力

多摩ブルー・グリーン倶楽部 会報誌

INTERVIEW

P2

トップリーダーに聞く

リジェンティス株式会社 代表取締役

柴 肇一 氏

P3

新事業にチャレンジ

東京電子株式会社 代表取締役

黒岩 雅英 氏

P4

事業承継を経験して

株式会社イズミ 代表取締役社長

藤森 政紀 氏

P5

グローバル企業の最前線

株式会社セキコーポレーション 代表取締役社長

山木 孝之 氏

P6

地域貢献

株式会社ツインキールズ 代表取締役

赤星 良平 氏

P7

倶楽部事業レポート



お客さまの幸せづくり
たましん

人体を進化させるEXポリリン酸® その研究成果を応用し 人々の健康・美容に役立てる

ポリリン酸の未知の 可能性にかけて 大学ベンチャーとして起業

EXポリリン酸®・分割ポリリン酸®を配合したヘルスケア商品の開発・製造・販売を行うリジェンティス株式会社。EXポリリン酸®とは、生物の体内で各種たん



リジェンティス株式会社

代表取締役

しば けんいち
柴 肇一氏

長野県出身。大阪大学大学院修了後、米スタンフォード大学にて生体内ポリリン酸の研究を開始。帰国後も研究を続け、2004年にリジェンティス株式会社を設立。現在もEXポリリン酸®の生理機能研究を継続している。

ばく質と結びついて機能を強化させることで、世界的に注目されている生命物質の一つである。

同社の柴肇一社長は、DNA複製の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞した米スタンフォード大学のアーサー・コーンバーグ教授に師事し、当時ほとんど研究されていなかった

た生体内ポリリン酸の研究に携わった。

「アメリカから帰国した後も、北海道大学大学院の助教授を務めながらポリリン酸の研究を継続しました。その成果を再生医療分野に活かすため、大学発の創業ベンチャーとしてリジェンティスを立ち上げました」と柴社長。

しかし、創業事業は開発に長い期間が

かかり、承認を得てビジネスになるまでに莫大な資金が必要となることから、早くビジネス化できる医薬部外品の開発へと方向転換したのだという。

「研究とビジネスは全く別の考え、別の動きが求められます。研究はほぼ自分の趣味の世界ですが、ビジネスは他の人たちと

のつながりが重要になります。研究肌である私は、いろいろな人たちと積極的に交流することに当初は苦勞もしました」と振り返る。

後にラジオやテレビを通して自社製品の通信販売をスタートした同社。現在では、ペット用のケア製品まで展開を広げ、動物病院の運営も行っている。

世界各国の研究機関とともに 新たな技術・商品の 開発に挑む

ビジネスが拡大し、会社が大きく変化していくなかで、社員を牽引していくトップリーダーとして心にかけていることを柴社長に聞いてみると、こんな答えが返ってきた。

「社員は最小限の人数で効率的に仕事ができるようにしています。私自身にリーダーという意識はありませんが、社員とコミュニケーションが取りやすい環境が大切だと思います」

また、目指す次のステップを聞くと、「弊社で開発した分割ポリリン酸®やEXポリリン酸®は弊社しか製造しておらず、世界各国の大学や研究機関から分与のリクエストが届いています。それらの研究をサポートして、そこから革新的な技術開発や商品開発ができると楽しいと思います」と話してくれた。

第7回多摩ブルー賞 優秀賞・特別賞受賞

リジェンティス株式会社

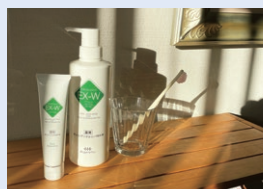
<https://www.regenetiss.co.jp>

東京都国立市東1-7-20(東京事業所)

TEL:042-577-7777 FAX:042-577-7771

E-mail: shiba@regenetiss.com

●創業:2004年1月 ●従業員数:30名(2024年1月末現在)



社長のひとこと

ポリリン酸はもともと生物の体内に存在するため、とても安全な物質です。人々の健康や美容に貢献できるものですので、ぜひたくさんの方に分割ポリリン酸®やEXポリリン酸®に興味を持ってもらえとありがたいです

ゼロエミッションの 核融合エネルギーの誕生に 自社の技術で貢献していく

東京電子株式会社

代表取締役

くろいわ まさひで
黒岩 雅英氏

東京都出身。成蹊大学経済学部卒業の後、日製産業株式会社（現・株式会社日立ハイテク）を経て、1994年に東京電子株式会社入社。1998年に代表取締役社長に就任。



核融合研究の 国際プロジェクト ITER計画に参加

真空機器や電源装置の開発・製造する東京電子株式会社。真空機器部門は、真空状態を「造る・計る・分析する」製品を展開し、なかでも極高真空にフォーカスしている。「極高真空」とは真空状態のさらに上をいくウルトラクリーンな状態。その環境下だからこそ実現できる高精度の質量ガス分析や、高性能半導体製造などで、自動車産業や半導体産業に貢献している。

電源装置部門では、究極のパルステクノロジーを駆使してプラズマをつくり真空装置・核融合装置を「動かす」電源を開発している。そのなかでも、特に注目されているのが「核融合 高周波加熱装置用加速電源」だ。

核融合技術とは、海水から水素を取り出し、高温プラズマ中で反応を起こすことでエネルギーを生み出し発電する技術。低コストで膨大なエネルギーを得ることができ、二酸化炭素の排出もないことから「サステイナブルな社会」に向けた、次世代エネルギーとして期待されている。

「当社の加速電源は高温プラズマを起こす高周波加熱装置を駆動するための電源でいわば核融合反応の起点となる

ものです。電源の特徴としては90KVもの高電圧を高速でスイッチングさせることができます。この開発は2012年に核融合研究の国際プロジェクトであるITER（イーター）計画に参加し、日本サイドの担当研究機関である量子科学技術研究開発機構（以下QST）とともに進めてきました」と黒岩雅英社長。

次世代エネルギーの 商用化に自社独自の 技術で挑む

政府の指針では、核融合技術による商用化発電は2040年代以降となっている。しかし、売電のビジネス化を目指す核融合ベンチャーが世界各国に出現し、マイクロソフトやアマゾンなど、ビッグデータのために多くの電力消費を予定している企業が資本を投下し、既に電力供給の契約を結んでいるという。このように、商用化発電に向けた研究開発事業が旺盛である今、黒岩社長はそこをターゲットにビジネス展開を視野にとらえているのだそうだ。

第21回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞

東京電子株式会社
<https://www.toel.co.jp>

東京都国分寺市本町2-22-7

TEL:042-329-5090 FAX:042-329-5091

E-mail:kuroiwa@toel.co.jp

●創業:1953年5月 ●従業員数:23名(2024年1月現在)



社長のひとこと

現代社会は「地球温暖化」「エネルギー危機」「核の廃棄物問題」など、様々な問題を抱えています。その解決となる一つの方法が核融合であると考えます。当社の加速電源がその起点となる、つまりすべてはここから始まる。そのような責務を負って進めていかなければいけないと考えております。

創業者夫妻の意志・考えを引き継ぎ 世の中を、あるいは誰かを 幸せにする会社でありたい

創業者への尊敬と感謝の 気持ちで事業承継を 引き受ける

株式会社イズミは、創業以来約40年にわたり、一貫して環境問題に取り組んできた。「自然との共存」を基本姿勢とし、ろ過装置やろ過システムなどの水処理分野と、ポータブル電源など災害時に役立つ

分野、この2領域での製品開発・販売を通して社会に貢献している。

たとえば、東日本大震災の折、停電で地域一体が真っ暗になった体験から、町田市と共同で開発したLED無停電電源装置システム「消えないまちだ君」は、社会から高い評価を得ており、全国およそ60自治体、1300基ほどが導入されている。

藤森政紀社長は、「社会貢献」を企業理念として掲げ、それを体現し続けているこの会社を2021年に承継した。

株式会社イズミ
代表取締役社長

ふじもり まさき
藤森 政紀氏

東京都出身。1992年、株式会社イズミにアルバイトとして採用され、翌年正社員となる。1996年退社し、2008年株式会社フジシエルパを設立。同年イズミ創業者の息女と結婚。2021年、イズミ先代社長逝去後、代表となる。

「私は創業者夫妻（先代・先代社長）の相次ぐ逝去後、代表に就任しました。その頃私は自分が立ち上げた会社もあり、事業承継には正直、迷いがありました。それでも引き受けたのは、若い頃からお世話になり、後に結婚によって家族となった創業者夫妻が二人三脚で歯を食いしばって頑張る姿を傍で見てきたからです」
二人への深い感謝と恩返

しの想いから事業を受け継ぐ決心をした藤森社長だが、継承に至るプロセスでは、会社の現状把握や経理・財務部門などの理解に大変苦労したという。

「今思えば、会社も自分自身も課題が多く、不安だらけのスタートでした。何をどのように解決していくのか、その優先順位もつけられなかったというのが正直なところです。そこで、まずは『わからないことはわかる人に聴く』の姿勢で行こうと、頭を切り替えました」

経営者としての勉強不足を痛感した藤森社長は、様々な分野のセミナーや講習会に率先して足を運んだのだという。

「この会社で働いてよかった」と社員が誇れる会社

「志半ばで病に倒れた創業者夫妻は、大切な社員の雇用を守り、安定した給料を支払い続けられる会社としての責任、大切なお客さまに対しての責任を感じていたはず。さらには、社会に貢献する会社であり続けたいとも思っていたと思います。そんな二人の意思、考え方、仕事に対する姿勢をしっかり受け継いでいきたい」と藤森社長。

そして、社員全員が「イズミで働いて良かった」と誇れる会社、お客さまから「いつもありがとう」と感謝の言葉をいただける会社でありたいと語ってくれた。

第12回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

株式会社イズミ
<https://www.izumi-co.com>

東京都町田市小山ヶ丘2-2-5
まちだテクノパーク・センタービル2階
TEL:042-798-7011 FAX:042-798-1500
E-mail: fujimori@izumi-co.com

●創業：1985年5月 ●従業員数7名(2024年1月末現在)



社長のひとこと

「会社」とは世の中を、あるいは誰かを幸せにしてあげられるもの。事業を継続しているということは、誰かに幸せを送り続けているということ。逆に言えば、それができない会社は会社とはいえないと私は思います。

手離れの良いサプライヤーであり続けることで 世界各国の取引先の 開発から量産までを支える

従業員の80%は外国人 グローバル拠点で 相互支援体制を構築

精密プレス製の金型製作からプレス加工、組立まで一貫生産する株式会社セキコーポレーション。今から70年前、黒電話の部品づくりからスタートし、現在はペット型口ボットや高級ミラーレスカメラ、自動車関連などの様々な部品を大手メーカーへ納入している。1987年のシンガポール進出を皮切りに、中国（上海、常州、蘇州）、タイ、マレーシアに工場や営業・調達拠点を持つグローバル企業だ。

1987年はまさにバブル景気が動き出



株式会社セキコーポレーション
代表取締役社長

やまき たかし
山木 孝之氏

東京都出身。慶應義塾大学大学院の政策・メディア研究科修了。大手企業を経て、2013年に義父が経営する株式会社セキコーポレーション入社。2016年、事業承継し代表取締役に就任。

した年。その時期に海外進出を試みたきっかけを山木孝之社長はこのように語る。
「これからは国内だけで製造業を続けるのは難しくなると創業者が考え、海外に出ようと決断したことが当社の海外展開の出発点です。大手は安価な人件費を求めて海外に生産工場を構え始めた頃でした。当時、海外に生産拠点を構える当社規模の中小企業はまだ多くなかったと聞いています。創業者の先見の明だったのではないのでしょうか」
現在、約600名のグループ従業員の80%は外国人という同社。日本の技術者が海外支援に行くだけでなく、中国の優れた

技術者が日本やタイに支援・応援に出向く相互支援体制が構築されているという。

文化・風習の違いがある からこそ

共通点を見つけて 会社の存在意義を示す

世界に点在する各拠点の社員に対して、会社の方向性やビジョンをどのように示しているかと山木社長に聞くと、こんな答えが返ってきた。

「自ら現地に外向いて、現地メンバーとコミュニケーションをとり、現場の意見を大切にしています。その際、文化も風習も違うからこそ共通点を見つけて話をすることが重要だと思います。当社はどの拠点も大手メーカーへ部品を納入する量産工場の役割を担っています。お客さまに約束した品質の製品を期日通りに届け続けることは容易なことではありませんが、それなくして当社は存在し続けられないことを毎度伝えていきます。発注後は放っておいてもトラブルなく物事が進む、手離れの良いサプライヤーであること。いかにお客さまの製品開発から量産まで、手を煩わせずにやりきるかが当社の重要な役割です」

遠く離れた現場のことも常に私事として捉えて向き合い、会社の存在意義をくり返し説く努力をしていると教えてくれた。

第4回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞

株式会社セキコーポレーション

<https://seki-corp.co.jp>

東京都八王子市明神町2-9-22

TEL:042-644-3991 FAX:042-644-3999

E-mail:info@seki-corp.co.jp

●創業 1954年2月 ●従業員数 600名(2024年1月現在)
※海外グループ企業含む



社長のひとこと

多摩ブルー・グリーン倶楽部の会員は素晴らしい企業ばかりですから、会員同士の交流から新たなビジネスチャンスにつなげられるといいですね。各企業のノウハウを持ち寄って、数社と一緒に海外へ出ていくのもありではないでしょうか。

高齢者の介護予防とコミュニティづくりに貢献

住み慣れた場所で暮らし続けられるよう応援

医療・介護に「α」街づくり
生きがいを感じられる社会へ

株式会社ツインキールズは、医療法人五
麟会グループの介護事業部門として、「ア
ルゴ」の名称で3つのデイサービス施設を
中心に運営し、地域住民に親しまれる。

「五麟会グループは『ウェルビーイング
の追求』を経営理念に掲げ、医療と介護の
両輪で地域包括ケア・地域共生社会の

実現に向けて事業を展開しています。地
域包括ケアとは、どのような状態になっ
ても住み慣れた地域・自宅で暮らし続け
られるよう応援していくことです。要介
護状態になったら、医療・介護サービスの
介入は必要不可欠ですから、私たちのグ
ループ内でその部分を担っています。ワ
ンストップで必要なときに必要な支援が
できることが弊社の特徴です」と赤星良
平社長。

また、デイサービス施設には、喫茶
店・駄菓子屋・高齢者向けフィットネ
スなどを併設し、地域コミュニティ
の創出に注力しているのも同社の特
徴だ。

「医療と介護で最低限度の生活を
支えることができて、QOLの向
上には限界があると思うのです。人
と人とのつながりや関係性、役割や
生きがいがあるこそ自分らしい生
活が維持できると考え、医療・介護＋
α街づくり（地域包括ケア・地域共
生社会）の取り組みに積極的にチャ
レンジしています」
同社の営業地域は高齢化率が50%
を超える。そのなかで求められてい

るのは介護サービスだけでなく、「フレ
イル予防や高齢者が生き活きと暮らす街
づくり」なのだという。

地域の商店街と連携して
ボランティア活動を
ポイント制に

同社のデイサービス施設に併設された
喫茶店や駄菓子屋の運営には、地域内の
ボランティアも参加している。また、その
活動に対して、商店街と連携してポイン
ト制を導入しているのだという。

「弊社でボランティア活動をする」と1
回1ポイント、10ポイント貯まると商店街
で使える千円分の商品券に交換していま
す。これは地域の高齢者の役割の創出や
余暇の充実、介護予防にもつながってお
り、さらには介護サービスの利用者と地
域住民、介護スタッフと地域住民、地域住
民同士、商店街の店舗同士など、様々に支
え合う『互助』の仕組みの構築につながっ
ていると思います」
地域課題を明確にし、その解決に向け
て地域全体で取り組んでいきたいと話し
てくれた。

株式会社ツインキールズ
代表取締役あかほし りょうへい
赤星 良平氏

東京都出身。日本福祉教育専門学校卒業後、訪問入浴
からキャリアをスタート。デイサービス管理者、地域
密着型複合施設の施設長などを経て、2015年に株式会
社ツインキールズに入社。2017年8月代表取締役就任。

第18回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

株式会社ツインキールズ
<https://www.gorinkai.or.jp/company.html>

東京都東久留米市滝山4-1-40

TEL:042-420-6548 FAX:042-420-6549

E-mail: akaboshiryohai@gorinkai.or.jp

●創業:2017年8月 ●従業員数:80名(2024年1月現在)



社長のひとこと

今年2月に弊社で初めての障害福
祉事業「就労支援事業所アルゴ」を
東久留米市八幡町に開設しまし
た。ここでは仕出し弁当の製造・販
売・配達を生産活動として、地域の
引きこもり人材などの社会復帰支
援にも取り組んでいきます。

Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。

受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。

1 多摩ブルー・グリーン倶楽部 2023年度総会

実施日 2023年12月13日(水)

多摩ブルー・グリーン倶楽部2023年度総会において、決議事項として2024年度の倶楽部新役員4名が選出されました。また、報告事項として2023年度の9の事業の実施を報告しました。



倶楽部新役員紹介

会長	金澤建設株式会社 代表取締役社長	金澤 貴史 氏	副会長	多摩冶金株式会社 代表取締役副社長	山田 真輔 氏
副会長	株式会社コスモテック 代表取締役社長	高見澤 友伸 氏	副会長	株式会社タカキ 代表取締役社長	高木 聡 氏

2 第21回多摩ブルー・グリーン賞受賞企業が決定!

昨年、第21回目を迎えた多摩ブルー・グリーン賞は、以下の企業の皆さまが受賞され、12月13日(水)パレスホテル立川にて表彰式を開催しました。今後は多摩ブルー・グリーン倶楽部の会員として、共に活動していただきます。

【ブルー賞】	
最優秀賞	東京電子株式会社(国分寺市)
優秀賞・特別賞	株式会社イノフィス(八王子市)
優秀賞	株式会社テクサー(多摩市)
多摩みらい賞	株式会社アドニクス(八王子市)
多摩みらい賞	株式会社環境開発技研(国分寺市)
多摩みらい賞	株式会社コーセン社(町田市)
【グリーン賞】	
最優秀賞・特別賞	リプト株式会社(八王子市)
優秀賞	株式会社京南(昭島市)
優秀賞	株式会社みらいリレーションズ(渋谷区)
多摩みらい賞	株式会社MNH(調布市)
多摩みらい賞	たまエンパワー株式会社(多摩市)



「第35回例会」のご案内

日時 2024年4月19日(金) 14:00～17:30(受付開始 13:30)

場所 たましん本店4階 大会議室(東京都立川市緑町3-4)

内容 例会 14:00～

第1部 講演

「多摩地域のオープンイノベーションについて」

■ 糸久 正人 氏

法政大学 社会学部 准教授

2015.4.1～現在 法政大学大学院公共政策研究科准教授

2017.6.3～2019.6.9 学術・文化・産業・ネットワーク多摩常務理事

2019.5.30～2019.7.1 コズミンスキー大学客員教授

2019.8.21～2021.3.1 ペンシルバニア大学ウォートン校客員准教授

2022.4.1～現在 法政大学ソーシャル・イノベーションセンターセンター長

2022.9.20～現在 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術

総合開発機構 NEDOフェロー



第2部 第21回多摩ブルー・グリーン賞 受賞企業のご紹介

(最優秀賞受賞企業2社によるプレゼンテーション)

第3部 情報交換会 (会費1,000円 食事付)

定員 60名程度

申込方法

以下のいずれかの方法にて**4月12日(金) 17:00**までにご回答ください。
右記QRコードよりお申し込みください。



多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市緑町3-4

TEL: 042-526-7728 E-mail: bg-office@tamashin.net